

5. 歴史文化遺産の保存・活用に関する措置

5-1. 歴史文化遺産の保存・活用に関する措置の基本的考え方

本市の歴史文化遺産の保存・活用を推進するためには、現状では、各主体の取り組みに対する制度や事業等の支援が十分ではなく、また、連携して事業を進めるための体制が整っていないことが課題である。

また、市内の各地区に多くの歴史文化遺産が存在するが、各主体が個別に取り組みを進めるだけでは、その効果は限定的になることが懸念される。

そこで、本地域計画では、「加西市歴史文化基本構想」で定めたように、各主体の取り組みの梃子となる「市による先導と基盤づくり」と、各主体の取り組みを束ねその効果を高めるための「関連文化財群を通じた取り組み」、そして、それらを支える「取り組み推進のための仕組みと体制づくり」の3つの視点から、歴史文化を活かしたまちづくりの進め方を推進することを基本的な考え方とする。

本地域計画では、「加西らしい歴史文化を活かして、豊かな生活環境をつくり、地域活力を向上する」「加西に受け継がれてきた歴史文化に磨きをかけて、次の世代に受け渡す」「加西の歴史文化を大切に守り、活かす『加西人』を育てる」の3つの目標を掲げている。

この目標を実現するためには、各主体がそれぞれの役割を認識し、連携・協力して、「歴史文化を身近に想う」ための「調べる」「学ぶ」「考える」取り組み、並びに「歴史文化の魅力を育む」ための「整える」「発信する」「使いこなす」取り組みを進めることが基本となる。

そこで、歴史文化遺産の保存活用のための措置として、次頁以降に示すとおり、市民と共に進める歴史文化を活かしたまちづくりのための事業計画を設定する。

また、前述したように、事業の目的や目指す効果を歴史文化の保存・活用に関わる各主体が理解できるよう、数値目標としてのKPI（重要業績評価指標）を設定する。

なお、KPIの目標年次は、令和5年度（2023年度）までに実施を予定する事業を短期として設定する。但し、令和5年度（2023年度）時点で進捗状況の点検と効果検証を行ったうえで、それ以降の事業計画の見直し並びにKPIの設定等を行うこととする。

計画期間のうち、短期は3年（令和3～5年度）、中期は5年（令和6～7年度）とし、長期は令和8年度（2026年度）から令和12年度（2030年度）の5年間と設定する。

5-2. 市民とともに進める歴史文化を活かしたまちづくり

今後10年程度で優先的に実施する措置の内容ならびに実施スケジュール（短期：1～3年、中期4～5年、長期：6～10年）を次のとおりとする。また、計画は、重点的な実施期間を示すものであり、その他の期間においても、措置の実施のための準備や措置の効果検証、内容の見直し等を適宜実施する。

なお、経費については、市の直接実施（市費）、市が補助金を交付する（市補）、県及び国の補助金（県補・国補）、クラウドファンディング（CF）などを予定しており、国・県の補助については、文化財補助金・地方創生推進交付金等を検討し、今後は関係機関と調整を進め、財源を確保していく。

（1）歴史文化を身近に思う＜調べる＞

歴史文化を身近に思うためには、様々な主体による「調べる」活動が出発点となる。

このため、歴史文化遺産の継続的な調査、把握を進め、歴史文化遺産の魅力や価値の発見に努める取り組みを推進する。そこで、早い段階で加西市が中心となって、短期に歴史文化遺産に関する調査計画を作成し、中期には市による調査、団体による調査を連携して進めることを想定する。さらに、史料のデジタル化や先端技術を活用した調査などについては、継続的に市が中心となって進めるものとする。

また、玉丘古墳群の調査や加西市の歴史文化を特徴づける「石の文化」に関する調査は、市が主体となって取り組み、各地域の古地名や故地、水場、天下溝等の調査は、地域団体が中心となって進めることとする。

表 5-2-1 措置の実施計画（調べる）

方針	具体的な施策の内容	取り組み 主体※	財源	実施スケジュール			K P I
				短期	中期	長期	
1-a 調 べ る	（1）調査計画の作成 遺産調査推進のための調査計画の作成	加西市	市費				計画 作成
	（2）史料のデジタル化 大規模災害や盗難・棄損等に備えた史料のデジタル化	加西市 市民	市費				年1件 計3件
	（3）先端技術活用による調査 レーザ測量・3D活用等の推進	加西市 団体	市費・他				年1件 計3件
	（4）古地名・故地の記録と復元 古地名・故地の記録と復元によるかつての景観の把握	団体 加西市	市費・市補 団体				—
	（5）水場・利水・天下溝等調査 水場・利水・天下溝等調査による交流の場、聖地の記憶の記録化	団体 加西市	市費・市補 団体				—
	（6）『加西市史』の補足調査 小型近世建造物、村祠堂（建造物・備品）、古文書、出土品等の調査	加西市 市民・団体	市補・団体				—
	（7）市民による歴史文化遺産調査の支援 体制整備 調査支援による地域史の編集や地区関連文化財群の追加	加西市・団体 市民	市補・団体				—
	（8）文化財ハザードマップ整備 文化財防災計画作成の検討	加西市 団体・市民	市費				—
	（9）歴史文化遺産のデータベース化 歴史文化遺産データベース化による情報の一元化	加西市	市費				—

	(10) 玉丘古墳群の調査 史跡整備と並行した調査の実施	加西市 市民	文補				—
	(11) 石造物と石の産業史の調査 近世・近代の石仏・道標・石の産業史に 関わる調査	加西市 団体	市費・市補 団体				—

※上段：主として取り組む主体、下段：協力して取り組む主体

(2) 歴史文化を身近に思う〈学ぶ〉

市民が歴史文化の担い手であることを認識し、関心を持つためには、シンポジウムや市民講座における座学や歴史文化遺産を巡る歴史ウォーク、さらには、加西の歴史文化の特徴である石の文化に触れるための石彫体験などにおける「学ぶ」取り組みが重要である。

このため、加西市や団体が中心になって、市民を対象とした「学ぶ」機会の提供を短期から継続的に進める。また、歴史文化の担い手を育成するため、市が中心となり、歴史文化ガイドの育成のため、ガイド養成講座への講師派遣やマッチングなどの支援体制を短期から整備する。

市内の小中学生を対象とした歴史文化学習を推進するために、市内各地区の歴史文化学習メニューやプログラム作成、食を通じた学習等五感に訴える学びの場を設け、歴史文化遺産の保存・活用の次世代への継承を図る。

さらに、現在も活躍している市内各地区の歴史文化遺産の保存・活用に取り組むリーダー的人材を育成、顕彰するため、「(仮称)市民学芸員養成講座」を開講する。

表 5-2-2 措置の実施計画 (学ぶ)

方針	具体的な施策の内容	取り組み 主体※	財源	実施スケジュール			K P I
				短期	中期	長期	
1-b 学ぶ	(12) シンポジウム・講座等の開催 市民が歴史文化の魅力を理解できる場の 提供	加西市 団体・市民	市費・市補 国補・団体				年1回 計3回
	(13) 歴史ウォークの開催 歴史文化が体感できる機会の提供	団体 加西市・市民	市費・県補 団体				年1回 計3回
	(14) 石彫ワークショップの開催 石工の伝統工芸を学び、北条石仏等の魅 力を発信	団体 加西市・市民	市費				年1回 計3回
	(15) 歴史文化の担い手育成の支援体制の 整備 観光ガイド育成など次世代の担い手育 成、支援	団体 加西市・市民	市費・市補 国補				年5人 計15人
	(16) 歴史文化学習メニューの作成 小中学校向け歴史文化に関わるメニュ ーの作成	加西市 市民・団体	市費				—
	(17) 「(仮称)市民学芸員養成講座」開講 地域の歴史文化のリーダー育成講座の開 催	加西市 団体・市民	市費・文補				—

※上段：主として取り組む主体、下段：協力して取り組む主体

(3) 歴史文化を身近に思う〈考える〉

歴史文化をまちづくりに活かしながら守り、育み、より豊かな生活環境づくりや地域活力の向上につなげるため、「考える」取り組みを推進する。

このため、市内の地区単位で歴史文化遺産の保存・活用に関する計画の作成を推進する。作成の際には、専門家を派遣し、計画作成を円滑に進めることのできる体制を短期に整備する。こうした体制整備によって、短期から地域主体の歴史文化遺産の保存・活用を進める。

次に、市内に残る歴史文化遺産の保存、活用のための相談窓口を設置する。窓口では、保存・活用を進めようとする市民からの申し出に対して、修理・修復に関する補助の枠組や活用のための建築物の改築手法など、専門家による相談で対応することにより、歴史文化遺産の滅失を回避する効果を期待する。

こうした取り組みを市内全域で共有し、より一層推進するため、市民、協議会や観光関係などの団体、研究機関などの専門家、行政などが一同に会して、加西市の歴史文化遺産の保存と活用を考える協議会を設置する。こうした協議会を設置し様々な事項を共有することによって、市内のふるさと創造会議など、まちづくりに取り組む団体が主体となって加西市の歴史文化遺産の保存と活用を進める。

表 5-2-3 措置の実施計画（考える）

方針	具体的な施策の内容	取り組み主体※	財源	実施スケジュール			K P I
				短期	中期	長期	
1-c 考える	(18) 地区の計画や体制づくり等支援体制整備 専門家派遣等による活動支援	加西市 団体	市費				1 地区
	(19) 地域が主体となり保存・活用を検討 まちづくり団体等による遺産の保存・活用の推進	団体 市民・加西市	市費・市補 国補 地推交・団体				1 件
	(20) 相談窓口設置 遺産の保存活用のための市民向け相談窓口の設置	加西市 団体	市費				—
	(21) 多様な主体が参加する協議会の設置 歴史文化に関わる主体が集い、話し合える場の設置	加西市 団体	市費				—

※上段：主として取り組む主体、下段：協力して取り組む主体

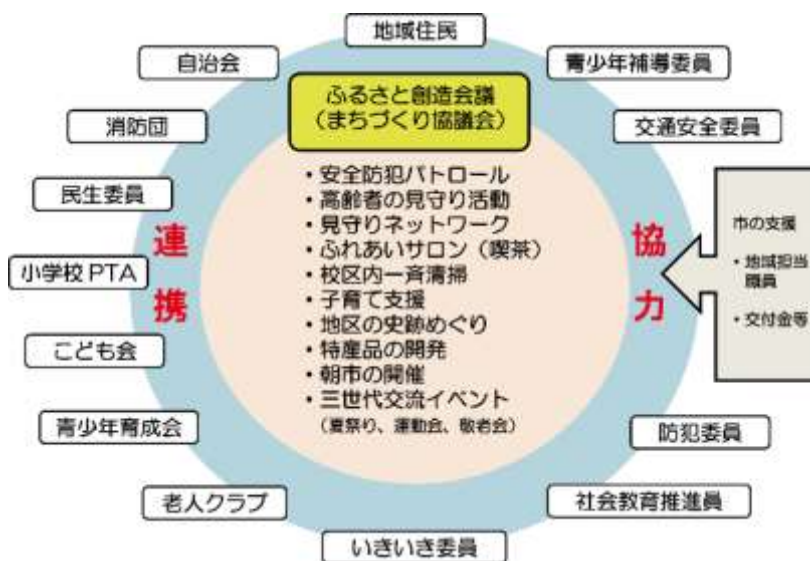


図 5-2-2 加西市ふるさと創造会議の構成と取り組み内容（出典：加西市HP）

(4) 歴史文化の魅力を育む<整える>

歴史文化遺産の保存ならびに活用のために必要な環境を整え、歴史文化遺産がもつ魅力のより一層の向上を図ると共に、歴史文化遺産の整備や新たな文化財指定の推進等を進める。

このため、史跡玉丘古墳群の整備推進、史跡公園の整備、市民や団体が中心となる五百羅漢観光整備事業の推進や北条地区の景観形成事業の実施などを短期から継続して進める。さらに、新たな文化財指定や登録、指定・登録文化財の修理・修繕についても短期から継続して計画的に進めるものとする。一方、「歩くまちづくり条例」に基づき、市民が歩いた距離を「健幸ポイント」に換算して商品券がもらえる制度を利用して、歴史文化遺産を結ぶウォーキングコース「歩く文化財パトロール」を地域住民と共に作成する。コースを歩くことで地域住民の健康と歴史文化遺産を守る。また、作成段階で地域に眠る歴史文化遺産の掘り起こしと周知を図る。中期以降は鶉野飛行場跡地及び周辺地域の整備などを加西市が中心となって進めるほか、企業等との連携により交通ネットワークの検討・整備、景観形成に向けた住民協定締結の推進を進める。加えて、中期以降、防犯設備の整備や防犯訓練の実施を計画的に進める。

表 5-2-4 措置の実施計画（整える）

方針	具体的な施策の内容	取り組み主体※	財源	実施スケジュール			K P I
				短期	中期	長期	
2-a 整える	(22) 史跡玉丘古墳群の整備 玉丘古墳群の継続的な整備	加西市 団体・市民	市費・国補				計画 見直し
	(23) 史跡公園の整備 憩いの場として拠点化整備	加西市	市費				修繕 完了
	(24) 五百羅漢観光整備事業の推進 石仏保護と観光拠点化推進	団体 加西市	県補 その他				来館者数 1万人
	(25) 北条地区の景観形成事業実施 道路美装化等事業の実施	加西市 団体	市補・県補 国補				年1件 計3件
	(26) 文化財の指定・登録等 新たな指定・登録の推進	加西市 団体・市民	市費・県補 団体				年3件 計9件
	(27) 指定・登録文化財の修繕 修繕・美装化等の推進	加西市・団体	市補 国補・県補				年1件 計3件
	(28) 文化財の解説板の改修・増設 老朽化への対応と解説板増設	加西市 団体	市費				年3件 計9件
	(29) 歩く文化財パトロール支援 歩きながら文化財防犯を進めるルートマップの作成	市民 団体・加西市	市費				作成 1件
	(30) (仮称)「地域の宝」登録制度 未指定文化財の保存・活用のための新規制度の創設検討	団体 加西市・市民	市費				—
	(31) 鶉野飛行場跡地及び周辺整備 飛行場跡地、地域活性化拠点施設の整備	加西市 団体	市費・国補				—
	(32) 交通ネットワーク検討・整備 北条鉄道、バス、自転車等のネットワーク化	団体 加西市	市費・団体 国補				—
	(33) 景観形成等住民協定締結推進 県条例に基づく景観形成重要建造物等の指定等推進	市民・団体 加西市	市費・県補 団体				—
	(34) 防犯設備の整備 監視カメラ等の設置推進	団体 加西市	市費 市補				—
	(35) 防火訓練の実施 火災等に対応する防火訓練実施	市民・団体 加西市	市補 県補				—

※上段：主として取り組む主体、下段：協力して取り組む主体

(5) 歴史文化の魅力を育む＜発信する＞

歴史文化に関する多様な情報を市域内外に広く発信し、まちづくりの機運向上ならびに移住者や観光客の増加につなげる。このため、短期から市のホームページの歴史文化情報の拡充や、現在運用している「加西 Navi」の拡充、ARやVRなどの先端技術活用による魅力発信手法の検討などの他、出身者・来訪者による魅力発信の仕組みづくり、小谷城跡やランドマーク展望台など歴史遺産ビューポイントの設定、ふるさと納税充当事業の活用推進、多言語パンフの作成など、広く市外を対象とした魅力発信の取り組みを、加西市、各種団体、市民が共に取り組む体制を構築する。

中期以降は、文化財所有者、団体と協働して案内板・解説板の多言語化を図り一層の魅力発信を進める。

また、活動団体の顕彰制度の創設や歴史文化を活かした取り組み事例集の作成・発信により、多様な主体との連携推進を図る。後期は子ども狂言塾生や子どもガイド隊等の団体を(仮称)「子ども観光大使」として認定する制度を創設する。

表 5-2-5 措置の実施計画（発信する）

方針	具体的な施策の内容	取り組み主体※	財源	実施スケジュール			K P I
				短期	中期	長期	
2-b 発信する	(36) 市ホームページの歴史文化情報の拡充 市HPリニューアルによる歴史文化遺産の魅力発信	加西市 団体	市費				発信数 10%増
	(37) スマートフォンアプリの拡充 加西ナビの機能およびコンテンツの拡充	加西市	市費				発信数 10%増
	(38) 先端技術活用魅力発信方法の検討 AR、VR、三次元測量、ドローン空撮等活用	加西市 団体・市民	市費・国補				発信数 10%増
	(39) 出身者・来訪者による魅力発信の仕組みづくり SNS等を活用した魅力発信の仕組みづくり	市民・団体 加西市	市費				発信数 10%増
	(40) 歴史遺産ビューポイントの活用による魅力発信 遺産の全景やインスタ映えポイントの設定	加西市 団体	市費・県補				3箇所
	(41) ふるさと納税充当事業活用による情報発信拡充 ふるさと納税事業充当事業の拡充	加西市	市費				3件
	(42) 多言語パンフレットの作成 歴史文化を伝える多言語パンフレットの作成	加西市・団体 市民	市費・国補				パンフ 作成
	(43) 案内板等の多言語化 指定等文化財の案内板多言語化の推進	加西市・団体 市民	市費・国補				—
	(44) 活動団体顕彰制度の創設 歴史文化遺産に関わる活動団体への顕彰制度の創設	団体・加西市 市民	市費				—
	(45) 取り組み事例集作成・発信 市民向け歴史文化保存活用事例集の作成・発信・活用	加西市・団体 市民	市費				—
(46) (仮称)「子ども観光大使」の認定制度の創設 子どもたちの観光ガイドの取り組みへの認定制度の創設	加西市・団体 市民	市費				—	

※上段：主として取り組む主体、下段：協力して取り組む主体

(6) 歴史文化の魅力を育む<使いこなす>

歴史文化遺産相互のつながりや関係する主体間、地域間のつながりを創出し、地域活力の向上、歴史文化遺産の活用の効果が最大限に発揮できるよう、取り組みを進める。

このため、短期から関連文化財群についてパンフレットや市の広報誌で周知し、着地型歴史文化観光メニューの検討、関連文化財群を巡る観光ルートマップづくりを進める。また、歴史文化を使いこなすため、庁内関係部局の連携・調整体制の整備に短期から取り組む。さらに、近代化遺産（農業遺産）である飯盛野疏水を活用し、鶉野町の奉天池から疏水沿いに明治の近代化遺産をめぐるウォーキングルートを加古川西部土地改良区を中心として整備する。

中期からは、市民やふるさと創造会議などが中心となって、各地区の関連文化財群の検討も推進する。さらに、青野原俘虜収容所などの近代遺産施設を地区の活性化や交流の拠点として活用する。また、歴史文化遺産を活かした収益構造の確立、近隣市町と連携した広域連携によるイベントやプロモーションを促進する。このような取り組みにより、歴史文化を活用した加西市特有の地域ブランドづくりを促進し、地域活力の向上につなげるものとする。

表 5-2-6 措置の実施計画（使いこなす）

方針	具体的な施策の内容	取り組み主体※	財源	実施スケジュール			K P I
				短期	中期	長期	
2-c 使いこなす	(47) 関連文化財群の周知 パンフレット・広報等による関連文化財群の周知	加西市 団体・市民	市費・団体				市民 認知度 60%
	(48) 歴史文化観光メニューの開発 歴史文化を活用した着地型観光メニューの企画・推進	団体 市民・加西市	市費				新企画 3回 開催
	(49) 関連文化財群マップづくり 「播磨国風土記」をテーマとしたドライビングルート・標識の拡充	団体 加西市	団体・市費				標識設 置3件
	(50) 庁内関係部局の連携・調整 各種事業の連携・調整の推進	加西市 団体	市費・県補				連携事 業1件
	(51) 近代化遺産ウォーキングルート整備 奉天池から飯盛野疏水沿いのルート整備	団体 加西市	国補 県補				整備 開始
	(52) 地区の関連文化財群検討支援 市民による関連文化財群検討支援	市民・団体 加西市	市補・団体				—
	(53) 近代遺産施設の活用 青野原俘虜収容所跡・鶉野飛行場跡等の活用	加西市・団体 市民	市費・国補 県補				—
	(54) 歴史文化を活かした収益構造の確立 所有者等による収益確保の取り組み推進	加西市 団体・市民	市費・市補 団体				—
	(55) 県や近隣市町等との連携による広域展開 石の文化、播磨国風土記等特定テーマの広域連携の推進	加西市・団体	市費・県補				—
	(56) 歴史資料の活用イベント等の企画・開催 歴史資料を活用した展示会等の企画・開催	加西市・団体	市費・市補 国補				—
(57) 地域ブランドづくり 歴史文化を活用した地域ブランドの企画・事業化	市民・団体 加西市	市費・県補				—	

※上段：主として取り組む主体、下段：協力して取り組む主体